

寒い北海道の冬は、夜なべしてリーフアートづくり

北海道の佐野です。千葉から札幌に引っ越して、2度目の冬を迎えています。昨シーズンに比べ、積雪量が多く、週末は、慣れない雪かきに苦労しています。

1月の札幌市の月降雪量は182センチで、14年ぶりの大雪とのこと。2月に入っても、雪が続き、通勤経路の道路脇には、背丈を遙かに超える雪がうずたかく積み上がっています。昨年の今頃は、ところどころで、根開きが見られ、山肌の一部には地面が表面に出てきていたのですが、今年は、まだまだ、山全体が雪に覆われています。千葉では、春めいてきていると思えますが、北海道では、春はまだ遠しですね。



6月号の会員広場でも投稿しましたが、私の通勤経路には標高225メートルの円山が鎮座しており、季節毎に姿を変化しています。今回は、信号機になぞらえて、赤、黄、緑の円山をご紹介しますが、真っ白な円山をご紹介します。写真を4枚並べると、その色の変化が著しいですね。

それぞれの撮影月日は、赤色は令和3年4月15日、黄色は5月6日、緑色は5月22日、白色は令和4年1月17日です。ちなみに、赤色はカツラの新芽、黄色はカツラやイタヤカエデの新葉の色、白色は説明不要ですね。



1月以降、オミクロン株の感染拡大により、北海道自然観察協議会主催の観察会が中止となり、昨シーズンに続いて、雪の北海道の自然観察ができず、残念な思いをしているところですが、9月号でもご紹介しましたが、密かなライフワークとなりつつあるリーフアートが新たな展開に入りました。

北海道の場合、常緑広葉樹がほとんど自生していないため、落葉広葉樹の葉っぱを使って、様々な作品を作ってきました。これまでリーフアートに使った樹種は、ミズナラ、カツラ、キタコブシなど40種を数えます。北海道に自生する広葉樹種は、ほぼ使ったことになりましたが、この中で常緑広葉樹はヒメユズリハのみです。なるべく、厚みがあり、葉脈が目立たない葉っぱが望ましいので、落葉広葉樹よりは常緑広葉樹の方が良いですね。千葉に戻った時に、いろんな常緑広葉樹の葉っぱで、リーフアートを作りたいです。



さて、冬の到来が早い北海道では、11月中旬になると、葉っぱを落としてしまうため、リーフアートづくりも、しばらく休止していたのですが、とあるきっかけで、笹の葉っぱ（クマイザサ）を使ってみたところ、なかなか味わい深い作品となりました。これ以降、笹の葉っぱを使ったリーフアートづくりが日課となりました。その中で、いくつか、ご紹介したいと思います。

まずは、バレンタインデーにお披露目した葉っぱバレンタインです。細長い笹の葉っぱの特徴を活かして、アルファベットの文字を切り取ってみました。世の中では、フラワーバレンタインが広まりつつありますが、リーフバレンタインという新たな文化も広めたいですね。



続いて、雪が似合う物語シリーズ。古典的な童話を代表して赤ずきんちゃんと白雪姫のワンシーン、そして、ディズニー映画を代表して、アナと雪の女王に登場するオラフ（命が宿った雪だるま）を切り取りました。完成した作品を手にして、氷点下の雪山に繰り出し、雪原に這いつくばりながら写真を撮りました。真っ白な雪をキャンバスにすると、リーフアートがいっそう映えますね。このほかにも、日本代表として、ジブリ映画のキャラクターのリーフアートも作成しました。

この時期、近くで採取できる材料が笹の葉っぱだけなのが何とも歯がゆいですが、いろんな作品にチャレンジして幅を広め、春の訪れを待ちたいと思います。



佐野由輝（札幌市）

千客万来のハゼノキ

佐倉城址公園は自宅に近いので、短時間でも手軽にバードウォッチング出来る所です。1月のある日、茶室のある古風な建物の近くにハゼの実が成っていて、メジロが食べに来ていたのを見えました。それを撮影していると今度はコゲラが来ました。更にはシジュウカラなど入れ替わりに食べに来てましたから木の前でカメラを構えているだけで以下の種類が写せました。



メジロ



コゲラ



シジュウカラ



ツグミ



アカハラ



シロハラ



ジョウビタキ ♀



ルリビタキ ♂



ルリビタキ ♀

この公園で可能性のありそうなのは上記に加えヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ヤマガラ、カラス類がいるので、もっと粘れば撮影の種類は増えたと思います。

ハゼノキと同じウルシ科のヌルデを食べる種類も多く、野鳥写真家の叶内拓哉氏の観察では訪れた野鳥の記録が25種に昇ったそうです。ハゼノキも同程度の見込みがあります。

ハゼノキは和蝋燭を作る原料として植栽されたものが野生化したと考えられていて、実は油脂分が多く高カロリーの為、野鳥に好まれているのでしょう。

鳥類は実を丸呑みして、表面の油脂分を吸収して、種そのものは排出していると思います。鳥によって種子が散布されている訳です。因みに写真のハゼノキはスダジイの老木の幹に出来た洞から生えています。最初は小さな洞に溜まった落ち葉や土埃が僅かな培土となり、そこへ偶然落とされた種が発芽し、洞の拡大と共に根を地上まで伸ばして生長したようです。偶然と奇跡が重なったとしか言いようがありません。 佐倉市 坂本 文雄。

スポーツジムをやめて刈り払い機でダイエット？！

2018年に退職して、100坪ほどの畑を借りて野菜作りを再開しました。野菜作りは楽しいのですが、誰とも口を聞かない日も多く、もっと自分の住んでいる佐倉のことを知ろうと思い、「佐倉自然同好会」と「人と自然をつなぐ仲間・佐倉」に入会しました。そこで畔田にある谷津田のビオトープ維持作業や、佐倉市内の里山の観察会、カタクリの保護、湧水の保全活動をしています。活動日のある日に会員の方から自然観察指導員講習会の紹介をいただきました。面白そうなので、2019年3月に高尾の森わくわくビレッジで開催されたNACS-J自然観察指導員の講習会に参加しました。そこで、全国の皆さんと一緒に森の見方を学ぶことができました。礼文島自然情報センターの方や白山山地ビジターセンターの方、八幡平ビジターセンターの方、登山ガイドの方、千葉県内の大学生の方々等と一緒に1泊2日の研修を受けたことは良い思い出です。秋には、さっそく地元の小学校に呼ばれて総合的な学習の時間のお手伝いを始めました。しかし、その後はコロナウイルスの蔓延のため、なかなか実現できません。

2020年には佐倉市の畔田ワークショップにも参加し、草刈りダイエット（刈払機を2時間使うと体重もわずかですが減少するのです）を中心に活動しています。体重は草刈りと同じで、増減を繰り返しております。これでは足りないので、坂本文雄さんと一緒に下志津の竹林整備も始めました。



2021年からは、さらに佐倉市民カレッジの仲間16人で下志津の竹林整備活動を始め、切った竹を使って畔田にある炭焼き窯で炭焼きを始めました。

そして秋からは、千葉県自然観察指導員協議会の皆さんと一緒に千葉市立横戸小学校にお邪魔して、校内林を使った総合的な学習の時間のお手伝いを始めました。

今後は、昭和の森や中央博での活動にも参加したいのですが、多くの活動に手を出しているため、ダブルブッキングになることもあり、体が二つあればと思う今日この頃です。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

井上隆夫（佐倉市）



上記QRコードからHPへどうぞ

ビロウドツリアブ

啓蟄も過ぎると待ちわびた春がやってくる。3月の散歩は暖かい明るい陽ざしを感じて活動を始めた虫たちにたくさん出会えてうれしい。なかでもビロウドツリアブがタチツボスミシで蜜を吸ったり、朽木で日向ぼっこをしたりするのを発見したりすると、春がきた証拠を観たと胸が高なる。ビロウドツリアブは3月から4月だけ観られる虫版のスプリングエフェメラル(春の妖精)だからだ。

ふわふわもこもこの丸い体はビロードに似ているのでこの名前がついたという。ホバリングしながら蜜を吸っている姿が愛らしい。蝶や蛾の仲間にくるとまかれた口吻を伸ばして蜜を吸うが、ビロウドツリアブは長い先が尖ったストロー状の口吻を槍のように突き出している。この口吻は花の蜜があるところに合わせて伸縮させることができるそうだ。幼虫はヒメハナバチの巣に寄生してハナバチが集めた花粉や蜜と共に卵や幼虫まで食べて成長する。可愛い姿なのに、なんとまあ(ー)

山下美佐子 (東金市)



ビロウドツリアブ

とりあえず写真を

2年も続くコロナ禍で自然観察は、主に家の周りとなりました。自然観察といってもたいそうなことでなく、カメラを向ける対象が子供たちから虫になっただけです。以前、家の周辺は雑木林や畑が多く、クズやヤブガラシ、カナムグラが生い茂る空き地もありました。そこには成虫越冬のツチイナゴ、ナナフシ、ハゴロモヤドリガ、キタテハなど今まで見たことのない虫がいて、いつもカメラ持参していました。最初のころは名前を調べたりしていましたが、仕事やその他で忙しくなるととりあえず写真を、ということになってしまい久しいです。コロナ禍とメールマガジンのおかげで、とりあえず撮っていながらも、わからなかった虫の名前を調べる機会ができて良かったと思います。

3月末ナナフシモドキの孵化が始まります。カマキリよりも早く大きくなると食べられてしまうので……。パタンと落ちて死んだふりをしたり、ゆさゆさと体をゆすったりじっとはっぱの葉脈に似せて身を守ります。私の好きな虫です。今年はどうかな？

同じく3月にトビモンオオエダシャクが現れます。庭でダウンしていたところにトビモンの幼虫がたくさん見られたました。

松本 美千代 (千葉市)



はじめまして

八王子から大網に越して来て一年半になります。千葉に来て感じたのは植物の生育の良さ(スケール感?)でした。ベニカナメモチの花を見たのは初めてでしたし、クスノキの花は千葉みなどの通りを真っ白にしていました。裏山の高い所から垂れ下がっている千人草がシャンデリアのように輝いているのを見た時は心底美しいと思ったものです。毎日、駅までの道を歩いています。冬に入ってから色味の無い田んぼの間を歩く日々だったのですが、先日、枯れ山の中に灯のように点っている梅のつぼみを見つけました。今日、昭和の森の梅園に行ってみました。花は全体の三分といった所でしたが、昭和の森は‘わあ…’でした。(市町村の森、いいですね。) 樹木の花が好きです。この先住まいが変わる予定は無いので、未永くお付き合い願えればと思います。 宮内幸恵 (大網白里市)

